

[B グループ]議事要旨

<次第3 前半>複合対象施設の機能ごとのボリュームの分析

- ・ 複合対象施設における既存の諸室・ボリュームを全て建設予定敷地上に配置すると、かなり大きなものになる。
- ・ 会議室等の「活動」の諸室については、4施設を一つに複合する際に、諸室数を減らすことができると考えられる。
 - 既存の施設の稼働率を参考にすると、必要な数がわかるのではないか。
 - 「活動」に関わる諸室は、これまでのWGで議論してきたような活動や事業から、広さと数を割り出せば良い。
 - 豊中市立芸術文化センターは公民館と隣接しており、小さな活動は公民館で行われていると推測できる。苫小牧市も近隣に小さな会議室を持つ施設があるので、新施設では会議室の細分化は必要ないのではないか。
 - 陶芸室や調理室などの設備を備えた諸室は、削ることはできない。
- ・ 事務室や受付などの「窓口」の機能については、1つの施設に必要な広さは限られてくると思う。
- ・ 以前の公共施設では、東広島市芸術文化ホールや豊中市立芸術文化センターのような最近の施設と比較して、共用部の面積の比率をあまり多くとっていなかった。
 - これまで諸室の中で行われていたような活動や展示を共用スペースに広げることによって、諸室の面積を減らすこともできる。

→ 1,500席のホールがあるからこそ呼べるイベントやコンサートもあるので、一概には言えないのではないか。

- ・ 大ホール・中ホールが近くにあり、その間に共用の倉庫等を配置すると、市民会館のような不便さは解消され、無駄がなくなると思う。
- ・ 大ホールに比べ中ホールの方が頻繁に利用されるので、中ホールへのバックヤード動線を優先させ、中ホールを南側に配置すると良いのではないか。
- ・ 大きめの会議やサークルの練習などの利用もできるし、講演会等としての利用もできるような、平土間の多目的室があると便利だろう。

→ 労働福祉センターのホールと市民会館の小ホールを兼ねたような諸室をイメージしている。

■ 展示スペース（青）について

- ・ 展示室としては既存と同規模の 300 m²程度の部屋を用意し、よりオープンにしたい展示の際などは共用スペースも活用できるようにすると良いだろう。
- ・ 展示室と共用スペースを隣接させると、利用者を展示室へと引き込むことができるといったメリットも考えられる。
- ・ 展示が同時開催する場合は、諸室をパーテーションで区切るか、共用スペースを活用するか、別の諸室を活用することでも対応できるように思う。

■ 窓口スペース（緑）について

- ・ 事務室はインフォメーションとしても機能させるため、ロビーに隣接させると良いだろう。エントランスのすぐ傍か、エントランスから入って突き当たりの北側かどちらかが良いのではないか。
→ 職員から利用者の出入りが良く見えるよう、メインエントランスのすぐ傍に事務室が良い。
- ・ カフェは内部からも外部からもアクセスできるよう、建物の南側に面して配置する。

■ 共用スペース（灰）について

- ・ オープンスペースに面する部分にメインエントランスが設けられるだろう。
- ・ 共用スペースでミニコンサートを行うことを想定すると、2層分の高さの吹抜けが良いだろう。
- ・ ロビーを南側に配置し吹抜けにすることで、採光がとれて心地の良い場所になるだろう。
- ・ 共用スペースを南北に長く配置して、北側にもエントランスを設けることもできる。
→ 北側からのアクセスはあまり考えられないのではないか。

表 各機能スペースの配分

合計	活動	鑑賞	展示	窓口	共用
9,995 m ²	1,110 m ²	6,585 m ²	300 m ²	350 m ²	1,650 m ²
100.0%	11.1%	65.9%	3.0%	3.5%	16.5%